

令和5年度 第3回京都市公共事業評価委員会 議事概要

第3回委員会では、令和5年度公共事業の評価に関する意見書の取りまとめ等を行った。

1 開催日 令和5年12月14日（木）

2 場 所 本庁舎1階 第1会議室（オンライン会議）

3 出席委員

山口委員長、坂西副委員長、齋藤委員、土渕委員、内藤委員、山田委員

4 内 容

委員会における議事概要は、以下のとおり。

（1）令和5年度 公共事業の評価に関する意見書

これまでの委員会における審議を踏まえ「令和5年度公共事業の評価に対する意見書」の取りまとめを行った。この意見書を京都市長に提出し、委員会から京都市へ意見具申する。

（2）その他

・第2回委員会での質問への回答（住宅事業に関する公示地価の変化）

委 員：事業箇所近傍の公示地価が、ここ数年は京都市の平均値よりも上昇している点に着目すれば、全てではないものの一部は、事業の効果によるものとの説明で良いのではないかな。

・令和6年度 評価対象事業

委 員：来年度の再評価対象事業に山間部の道路事業が含まれている。これらの事業はB/CのB（便益）が過小に算出される傾向がある。その結果、本来は災害時に不通となることを避けること等が目的であるのに、B/Cのみの評価では事業が実施できないことになってしまう。この場合、ネットワークで評価する方法も考えられるので、来年度以降の再評価にあたっては、工夫をしてみてもどうか。

京 都 市：今年度頂いた、B/Cは小さくなる傾向にあり表される効果は限定的であるとのこと意見を踏まえ、国の動向等を研究しながら、わかりやすい説明資料を提示できるよう引き続き取り組んでいきたい。

・その他

委 員：今年度の審議はB/Cに関する意見が多かったが、市民目線からするとB（便益）の具体的な中身やC（コスト）との関係性を整理して伝えることが必要だと思う。例えば、労務費が高くなると時間価値も上昇するが、Bには反映されないこと等である。Cについて、世界的な物価高で増加したのか、事業計画の変更によるものなのか示していく必要がある。

また、事業採択から長期間経過している事業は、当初と現在とで意義が変化していないか、事業継続の必要性、進捗の度合い等の視点で説明していただければと思う。

京 都 市：B／Cの内容や事業の必要性等、わかりやすく説明できればと思う。

以上